

審査の結果の要旨

氏名 橋爪祐美

本論文は職業を持ち働きながら、痴呆と診断されていない、軽度から中等度の寝たきり状態にある要介護高齢者を在宅介護する娘・嫁を対象に、日常生活や介護体験を説明する理論を作成し、在宅介護者支援策のための知見を得ることを目的とした。Grounded theory の継続的比較分析法を用いて、職業を持つ介護者 14 名の、日々の具体的な介護体験や介護者の生活状況を想起したインタビューから具体的に記述し、限定された領域におけるデータに忠実な具体理論の生成を試みたものであり、下記の知見を得ている。

1. 職業を持つ介護者がマスコミ等を通じて規範の重要性の変化を認識し、自分の生活や生き方を尊重した生活を送るために介護者がとる戦略 (strategy) に関する 11 のカテゴリーと 42 のサブカテゴリーが抽出された。
2. <働く>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 生活のために働く、2) 子供のために働く、3) 介護のために働く、4) 趣味・遊びのために働く、5) 老後のために働く、が抽出された。
3. <任せる>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 男性の家族員に任せる、2) 同居家族に任せる、3) 介護サービスに任せる、4) 他家へ嫁いだ同胞・義理の同胞に任せる、が抽出された。
4. <気分転換する>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 自分の時間を持つ 2) 夫婦の時間を持つ、3) 家族で遊ぶ、が抽出された。
5. <動かす>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 被介護者を動かす、2) 夫を動かす、が抽出された。

6. <反論する>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 被介護者に反論する、2) 夫に反論する、3) 医師に反論する、4) 医師を選ぶ、が抽出された。
7. <被介護者を低く価値づける>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 被介護者を「ただの年寄り」と見なす、2) 被介護者の長生きを低く価値づける、3) 被介護者を笑う、が抽出された。
8. <介護サービスの利用を肯定する>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 夫の仕事を妨げない、2) 介護サービスの利用によって、被介護者の身体状態が良くなると考える、3) 介護サービスの利用によって、被介護者の精神状態が良くなると考える、が抽出された。
9. <自分の老後について考える>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 楽しい老後の送り方について考える、2) 子供を当てにしない、3) 自分の施設入所を肯定する、4) 好かれる高齢者になろうと考える、5) 若い世代のやり方を肯定する、が抽出された。
10. <自分のやり方を肯定する>カテゴリーが抽出され、サブカテゴリーとして、1) 自分の為に仕事を続ける、2) 介護サービスの利用を肯定する、3) 被介護者の施設入所を肯定する、4) 家族の時間を尊重する、が抽出された。
11. <自分を笑うカテゴリー>が抽出され、サブカテゴリーとして、1) 介護よりも仕事を優先する自分を笑う、2) 介護よりも遊びを優先する自分を笑う、3) 介護サービスに任せる自分を笑う、4) 夫に反論する自分を笑う、5) 被介護者に反論する自分を笑う、6) 被介護者を低く価値づける自分を笑う、7) 医師に従わない自分を笑う、が抽出された。
12. 職業を持つ娘・嫁が介護役割を担う過程を説明する、1) 介護者になるプロセス、とこれらの介護者が提供する介護量を次第に変化させる、2) 介護量増減のプロセス、の2つのプロセスが抽出された。

以上、本論文は、高齢者介護を契機に開発された、職業を持つ介護者の対処行動のバリエ

ーションを、一連のプロセスをもって明らかにした。これにより、公衆衛生看護活動において、女性介護者が自分の生き方を大切にしながら健康な生活を送り、健康な介護を提供するための支援策に寄与する知見を得た。本研究はこれまで未知に等しかった、職業を持つ娘・嫁の生活と介護体験の一部を明らかにし、女性介護者のQOLを保障する地域ケアサービスプログラムの構築に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。